

にぎわい

-日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信-

会員だより

《鳥取県発》

「環日本海航路」の実現に向けて

鳥取県では、「環日本海時代の西日本の拠点」を目指して、人、文化、農業、福祉、経済など様々な分野で環日本海交流を積極的に進めています。

今年11月8日には、「第7回環日本海圏地方政府国際交流・協力サミット」^{*)}に合わせ、「第2回環日本海圏地方政府経済協議会」が開催されました。

会議には、鳥取県のほか、韓国江原道、中国吉林省、ロシア沿海地方、モンゴル中央県(今年度から参加)の各自治体の経済部局の長及び経済界代表が集い、環日本海定期航路の実現、インターネットを活用した経済及び貿易情報の交換、図們江開発計画・境港FAZ(輸入促進地域)計画への協力、中小企業同士の交流支援など、将来の経済交流に向けた協議を行いました。

中でも、境港と東草(韓国)、羅津(北朝鮮)、ポシェット・ザルビノ(ロシア)、琿春(中国)を結ぶ海・陸路(環日本海定期航路)の開設及び物流の拡大を図ることで合意したことは大きな成果と言えます。具体的なルートとしては、昨年開設された「新潟-釜山-羅津」と「秋田-ポシェット」の両航路を境港に延長しようとするものであり、この航路が開設されれば、これまで大連港経由で扱っていた中国東北地方の貨物が、直接日本海を經由して境港に入ること



環日本海圏地方政府協議会に臨んだ各地域の代表

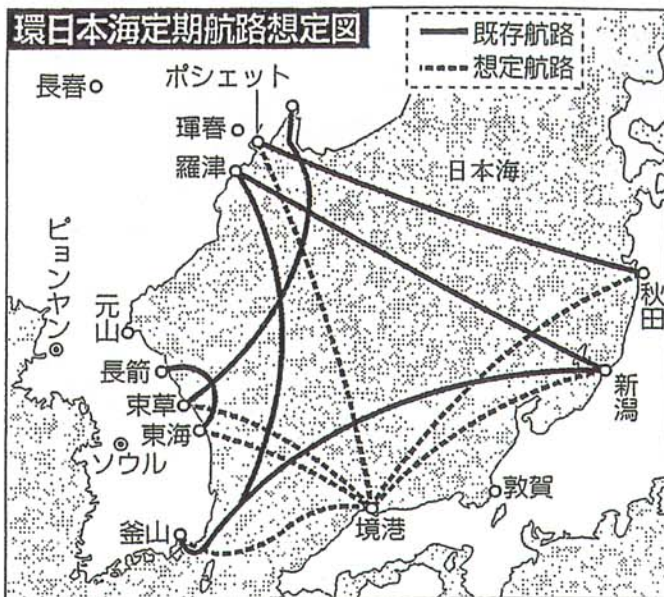
となり、陸路距離で約1,000km短縮できるなどの実益があります。

現在、環日本海航路の開設実現に向けての、鳥取県(商工部局、港湾部局)、境港管理組合、島根県、境港市、境港貿易振興会(境港ポートセールスの任意団体)、さかいみなと貿易センター(FAZ三セク)、地元経済界等が一体となって取り組んでいます。

*)環日本海圏地方政府国際交流・協カサミット
鳥取県と友好提携・交流の関係にある韓国江原道、中国吉林省、ロシア沿海地方、モンゴル中央部の5地方政府の知事・省長が一室に集い、各地域の発展について話し合う会議。平成6年(1994年)から開催し、モンゴルは今回から正式参加。鳥取県で開催されるのは今回で3回目。当初は観光・学术交流が中心だったが、次第に経済交流の比重が高まり、第6回(平成11年=1999年)からは同時期に経済協議会が開催されるようになった。

トピックス

鳥取県の行う環日本海交流の一環として、重要港湾鳥取港においても国内外でポートセールスを行っています。今年11月には鳥取港PRパンフレットを4ヶ国語(日本語、韓国語、中国語、英語)で作成しました。



(鳥取県土木部港湾課)

《浜田市発》

今年で市制施行60周年を迎えた浜田市では、60周年記念事業の一環として「ワールドトレードフェア2000 in 浜田」が島根県立体育館を会場に開催されました。



このトレードフェアでは、世界数十カ国の食料・衣服・家具・調度品・趣味の品々が会場で展示・即売され、併せて輸入促進に向けての商談会も開催されました。また、世界の食材を味わえる「屋台村コーナー」も設けられ、日ごろ味わえない本場のキムチや、日本のものとは一味も二味も

違うインドのカレーなどが注目を集めていました。11月3日から5日までの3日間の期間中に延べ25,000人が会場を訪れ、浜田港を利用するの輸入の拡大に向けて弾みがつきました。

また、トレードフェア初日の11月3日には、浜田港に隣接する浜田漁港を会場に「第10回BB大鍋フェスティバル(*)」が開催されま

した。浜田周辺で獲れた魚と浜田市周辺市町村特産の農産物をふんだんに使って、直径約2mの大鍋で作られた約5,000食の鍋料理が参加者に振舞われました。このフェスティバルは、昨年までは島根県立石見

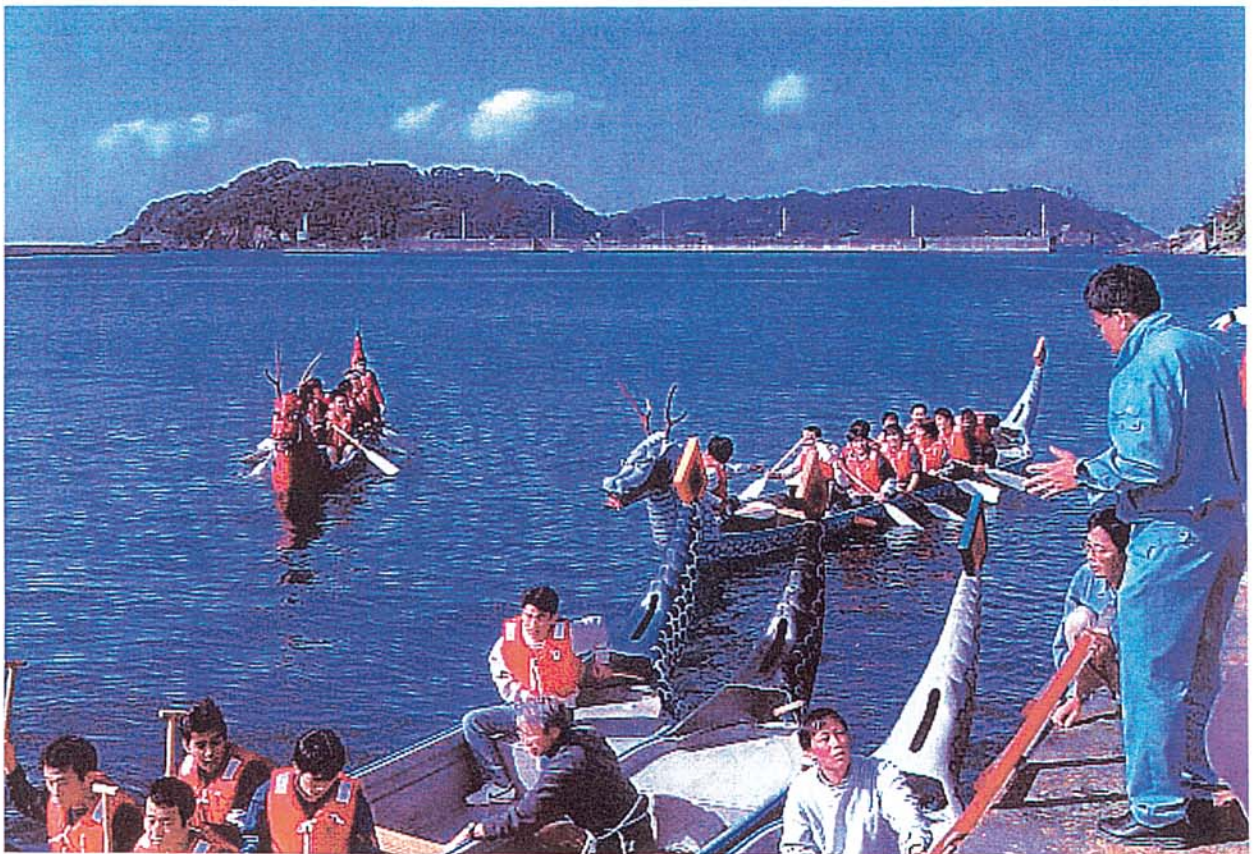


BB大鍋フェスティバルの状況

海浜公園で開催されていましたが、参加者により海に親しんでもらうため今回初めて「港」を会場として行われ、「BB大蛇ボートレース」(写真)や「BB釣り選手権」、「マグロの解体ショー」などの多彩な企画が行われました。参加者は好天のもと、鍋料理を味わいながら楽しい1日を過ごしました。

(*石見地方の幼児語で、お魚のことを「びーびー」と言います。これと「Beautiful Beach」の頭文字のBBを掛けて「BB大鍋フェスティバル」という名称がつけられました。)

(浜田市国県事業推進課)



BB大蛇ボートレース

五老スカイタワーから見た舞鶴港

京都府舞鶴市

舞鶴市は、本州のほぼ中央部、日本海が最も深く湾入したところに位置しており、海と共に発展してきた都市です。

重要港湾に指定されている舞鶴港は、主に東港と西港に二分されており、東港は国内貿易の重要な物流ルート基地や海上自衛隊の基地、西港は対岸貿易を中心とした国際貿易港として、それぞれ発展を続けています。

ここでは、この舞鶴港とそれを取り巻く美しい自然、リアス式海岸と市街地を一望に見渡すことが出来る舞鶴市の名所「五老ヶ岳公園」と公園内の「五老スカイタワー」を案内させていただきます。



舞鶴市マップ（市のホームページから）



舞鶴西港（五老ヶ岳公園から撮影）
手前から、第2、第3、第4埠頭



舞鶴東港（五老スカイタワーから撮影）
中央は日立造船(株)舞鶴工場

五老ヶ岳公園は舞鶴市の東西の市街地を結ぶ国道 27 号の五老トンネル東側入口付近から山頂へ約 3 キロメートル登ったところにあり、自動車の手軽に行くことが出来ます。この公園は東西市街地のほぼ中央に位置しているため、加佐地区を除く舞鶴市がほぼ一望出来、しかも舞鶴湾の入口が眼前に開けます。今の季節（秋から冬にかけて）の早朝は雲海を見ることも出来ます。ここからの眺望は、昭和 60 年に郵政省の近畿百景第 1 位に選ばれた実績があります。



タワーと舞鶴湾

一方、展望タワーにつきましては、京都府の市町村シンボル造り事業としての採択を受け、舞鶴市制 50 周年記念事業として平成 6 年度に建設工事が行われ、完成後市民に愛称を募集し、タワーが大空にむかってそびえ立つイメージを表現した「五老スカイタワー」の愛称が決定しました。

平成 7 年 8 月にオープンして以来、現在までの 5 年間の入館者は約 42 万人であり、今や舞鶴市を代表する観光スポットとなっています。タワーの避雷針を含めた高さは市制 50 周年事業にちなみ 50m あります。展望室の高さは海拔 325m で、以前は体験出来なかった 360 度のパノラマを楽しめます。

また、大水深岸壁 (-14m) を有し舞鶴港の中核となる多目的国際ターミナルとして現在第三港湾建設局舞鶴港湾工事事務所と京都府港湾事務所により建設中の島式埠頭である「(仮称)和田埠頭」の工事現場を真下に見ることが出来るため、入館者に舞鶴市の最重要施策の一つである港湾整備事業を身近に感じて頂くことが出来ます。



(仮称)和田埠頭建設現場 (中央)
(五老スカイタワーから撮影)



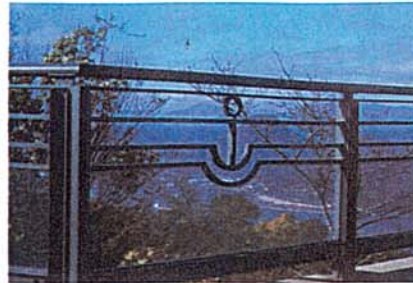
地上から見た(仮称)和田埠頭建設現場

タワー並びに周辺の整備は、本市が「世界に開かれた海洋・文化都市」を目指していることから、「みなと」のイメージを強く打ち出したものとなっています。タワーの外観は「船型」であり、頂上広場には自衛艦の錨を配置した方位盤や錨をデザイン

した手摺を配置し、地面には波をイメージした曲線上に小さなライトを埋め込んでいます。夜はこのライトが輝き、ライトアップしたタワーと共に夜の公園を美しく演出します。この頂上広場は夜のデートコースとして人気が高く、夏場は多くのカップルが訪れます。



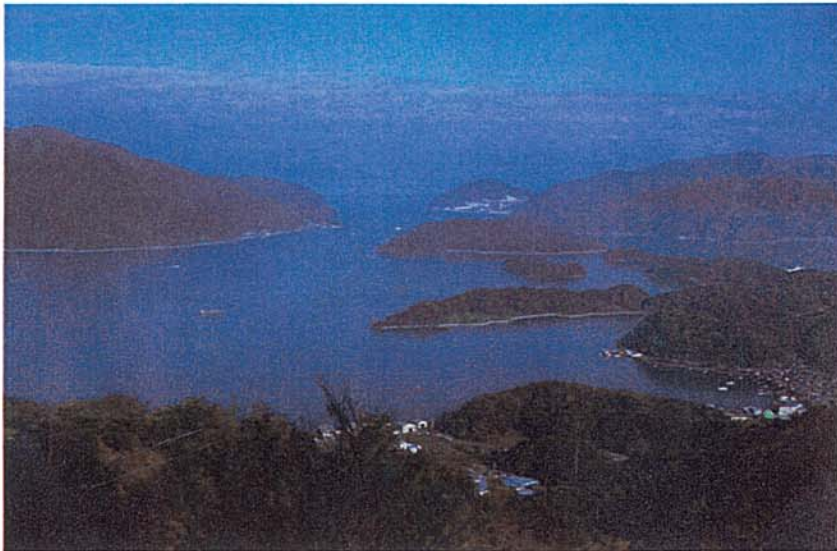
錨の方位盤



錨をデザインした手摺



頂上広場



↑上 夜の頂上広場。埋め込まれたライトが光ります。

←左 タワーからの展望

四季折々の山々の表情、青い海、美しい日没、神秘的な早朝の雲海などの雄大な自然と、人々息吹きを伝える美しい夜景をこころゆくまでお楽しみいただけるものと思いますので、舞鶴市へ来られた際にはどうぞお立ち寄りください。

五老スカイタワー概要

- ・タワーの位置
東経 135 度 20 分 北緯 35 度 27 分
- ・鉄骨造
(一階部分は鉄骨コンクリート造)
- ・階数 4 階
- ・建築面積 108.20 m²
- ・延床面積 287.40 m²
- ・展望階床面積 85.23 m²
- ・展望階の高さ
現地面から 24 m
海拔 325.2 m
- ・タワーの総高 50 m
- ・エレベーター 13 人乗り 1 基
- ・開館時間 午前 9 時～午後 9 時
(但し、12/1～3/31 は午後 5 時まで)
- ・入館料 大人 200 円 子供 100 円



西地区市街地の夜景

京都府舞鶴市

建設部都市計画課 港湾対策係長 宮下 哲美

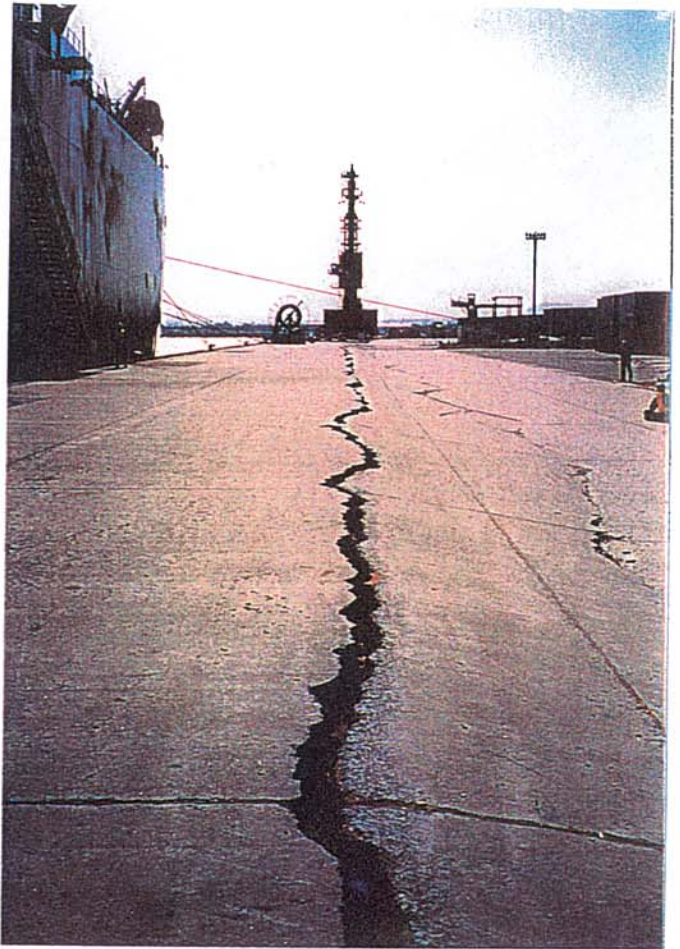
境港に激震。しかし、めげません境港

10月6日午後1時30分頃、鳥取県西部を襲ったマグニチュード7.3の地震は境港にも大きな被害をもたらし、被災額は推定約62億円にものぼりました。

地震の被害は、岸壁・物揚場・野積場等の沈下・陥没、臨港道路の凹凸状態、土砂の噴出、船舶給水施設の破損など、程度の差はあるもののほとんどの施設が被害を受けました。

地震発生直後から災害状況の調査にかかり、既に2ヶ月近く経過した現在は災害査定・復旧工事の発注に向けて鋭意準備を進めています。

しかし不幸中の幸いというべきか、港湾機能の最も重要な係船、荷役には一部利用制限はあるものの影響が軽微であり、特にコンテナの取扱いを行っている岸壁及びコンテナヤードとも被害はクラッ



被災した昭和南1号岸壁



被災直後のコンテナ荷役状況

ク程度であったため、被災後の10月8日に入港した中国定期航路船のコンテナ荷役は行うことができました。その後もコンテナ荷役は平常通り実施されており、10月のコンテナ取扱量は9月の取扱量と同水準を保つことができました。

また平成12年に入ってから境港の貨物取扱量は順調に推移しており、特にコンテナ取扱量では9月末までで6,662TEU（対前年比51.6%増）を

記録し、前年の取扱量6,258TEUをすでに超えた状態となっています。

人間万事塞翁が馬のことわざのとおり、今回の震災にめげることなく、いち早く復興をするだけでなく、従来にもまして利用者の使い勝手の良い港に生まれ変わるべく、管理組合の職員一同、努力しています。

(境港管理組合管理委員会事務局)

編集後記

21世紀へのカウントダウンと合わせて、1月6日の省庁再編に伴う国土交通省への移行も目前となり、新たに発足する近畿・中国・四国の3地方整備局立ち上げに向け、書類発送用の段ボールに囲まれて、気忙しい業務に取り組んでいる今日この頃です。

新体制発足後は、これまで以上に地域に密着したきめ細やかな港湾行政・事業を展開していきたいと考えております。また、本ネットワークの活動に対しましても、より一層の支援をしていく所存でございますので、今後ともよろしく御願いたします。

第三港湾建設局 広域連携推進室

TEL 078-391-8361

FAX 078-325-8288